

高校生へメッセージ

高校での勉強をしっかりとすることは大切です。あとは、将来のことをしっかりと考えてみて下さい。とりあえずとか、有名だからとか、そうやって大学を選ぶべきじゃないと思います。ちゃんとした意志を持つべきです。そうじゃないとその先を乗り越えるのが大変になります。何に興味があって、どうなりたいか、何をどこで学びたいか、実際に自分の目で確かめて、そして選んで欲しいと思います。

研究の道か、検査技師の道か。

医学群 医療科学類



高見 美帆
TAKAMI Miho (学群3年)

Q1. 入学前と今、興味があること

入学当初、ちょうどiPS細胞が話題になっていました。筑波大学の医療科学類は実務だけでなく研究にも力を入れていたので魅力的に感じました。加えて身近に難病を抱えている人がいて、その人は死に至る病気ではなかったけど、もっと病気の検査が簡単かつスムーズであれば早期発見につながって違う結果になっていたのでは？と疑問を持ち、検査のことを知りたいと思うようになりました。今は2つの道を考えていて、1つは臨床検査技師(患者さんから血や尿などを採取したり、電極を貼ったりして検査をする人)、もう1つは研究者です。元々は研究の方に興味があったし、臨床検査技師は専門学校でもとれる資格なので、せっかく大学で4年間学ぶなら、大学院に進んで研究したいと考えていました。しかし病院実習を行う中で、患者さんと接することができる臨床検査技師にも魅力を感じています。

Q2. 他の大学との違い

全ての学類が1つのキャンパスに集まっていることです。病院実習も附属病院で主に行っています。また、他の大学では臨床検査技師の資格がとれない大学もありますが、筑波大学は取得できます。医学、看護、医療科の3つが揃っているというのも魅力的だと思います。薬学がないのは少し残念ですが…。

Q3. 学群の特徴

ふざける時はふざけるけど、やるときはとことんやる所です！医学群施設は医学群生の学生証でしか入ることができません。自分が医学群生だという自覚が生まれますし、誇らしい気持ちもあります。勉強する棟と附属病院が繋がっているというのも魅力的です。整っている環境だと思います。

Q4. 後悔していること

英語の勉強をもっとコツコツしていたら良かったと思います。大学の英語の授業は軽くふれるだけで高校とは違うので、英語力の低下を感じます。それから、将来のことをもっと考えておくべきでした。今も悩んでいます。実習・バイト・課題をこなすのに精一杯で、考えることに時間をさけません。実習は12月中旬～3月中旬まで春休みを返上して行きます。4年生になったら卒業研究スタートで、9月には卒業研究中間発表、11月には研究を終え、それ以降は卒論、卒業試験、国家試験で休みがありません。いろいろなことに興味があるのですが、逆に選択肢が多くて困っている部分もあるので、絶対に将来こうしたい！という軸となる明確なものを1つ見つけておけば良かったです。

高校生へメッセージ

宿舍よりもアパートがいいかもしれません。自炊もしっかりできるし、体調管理ができるので。あとこれは蹴球部に限ることではありませんが、最初の3ヶ月は平日朝の練習に限り、午後の練習は免除されるというフレッシュマンコースというのがあります。午後に自分の時間をしっかりともてる唯一の時間なので、大切に使うて欲しいです。個人練習に打ち込むなど、時間の使い方を工夫してみてください。

プロのサッカー選手になるためにできることを。

体育専門学群 (蹴球部所属)



中村 脩人
NAKAMURA Shuto (学群2年)

Q1. 入学前と今、興味があること

入学前から興味は常にサッカーにありました。プロになることを当時から考えていました。今、学ぶ上で興味を持っているのは栄養学です。バランスのとれた食事、その時の体や体調に合わせた食事のメニュー、食事のとり方など。講義を受ける中で体づくりにも興味をもちました。

Q2. 他の大学との違い

体育会系、特に蹴球部に限って言えばプロの輩出率が圧倒的に多いです。これは筑波大学への入学を決めた一番の理由です。他の大学と大きく違った時期もあったのですが、結果的にプロの輩出率が大きな決め手になりました。筑波大学は環境的には田舎にあり、正直遊びづらい側面もあります。でも逆を言えばサッカーと向き合い、集中できる場所になったと思います。グラウンド施設も家から近くて通いやすい距離にあるのが嬉しいです。設備的には私立に劣るかも知れませんが、しっかりとしたウェイトルームもあるし、雨天時は代わりになるグラウンドもあり、毎日練習ができます。

Q3. 領域やコースを選んだ理由は？

体育専門学群は他の学群と比べ、仕切りがありません。異なるスポーツの実技で受験して、入学してからは同じ体育専門学群として1つにまとめられます。領域、コースはありませんが、研究室には分かれます。流れとしては2年次の秋に研究室紹介をオムニバス形式で受け、年末年始で研究室を選択、年が明けてから研究室に入るための面接を受けます。そして3年次から本格的に研究室へ。研究室はスポーツそのものに寄ったものや、コーチング系、栄養学系など幅が広く数多くあります。

Q4. サークル活動やアルバイト

バイトは週2(夜)。サッカーは練習時間自体は他大学と比べてコンパクトで、全体練習2時間と個人練習1時間の計3時間(毎日)です。日曜日は試合をすることがあるので、練習時間も伸びます。練習後にバイトに行くこともありますが、練習だけの日もいつの間にか時間がたち、就寝時間になることが多いです。あまり自由な時間はなく、テスト期間はそれなりに勉強時間をとるので忙しいです。

Q5. 将来のやりたいこと

もちろん、プロのサッカー選手です。

高校生へメッセージ

筑波大の芸術を目指してくる人は、入試形態から見ても学力に少しは自信がある人が多いです。大学の特色でもあると思います。でもそれを武器にし過ぎない方がいいなと最近はずごく思います。美大や芸大の学生の作品はやっぱりカッコイイし、大学より先、もしデザイナーや専門職に就くとなったらそういう人たちと競い合いながら一緒に仕事をするわけです。だから学力だけを武器にしないで、表現力も身につけて、自分なりのバランスをとらないといけないと思います。



広告の世界にあこがれて。

芸術専門学群 ビジュアルデザイン領域



吉村 勇紀
YOSHIMURA Yuki (学群4年)

Q1. 入学前と今、興味があること

元々はグラフィックに興味がありました。都内に貼ってあるような大きなポスターとか、お店に並んでいるパッケージとか……。今はグラフィックだけにとどまらない、物としての造形にも興味があります。デザイナーの上西祐理さんや三澤遙さんの作品が好きで、女性的で繊細な雰囲気の作品に惹かれます。

Q2. 他の大学との違い

周りにみんなが住んでいるのが他の大学と違う良いところです。土日とか関係なく学校に来ますし、仲良くなりやすい環境だと思います。三学エリアの方は海外みたいな雰囲気で噴水と芝生があって、ご飯を食べる時に芝生に座ったり寝転んだり。何もなくてもそこにいられるって良いなあと思います。

Q3. 領域やコースを選んだ理由

広告がやりたかったからです。自分の研究室の特徴かも知れませんが、外部の人から仕事をさせてもらえることがあります。作った作品がすぐに外に出て行くので、それに憧れて入学した面もありますし、達成感も得られます。

Q4. 楽しかった授業

創造学群表現学類という名前の授業です。芸専が開設している授業で、デザイナーやコピーライターなど、表現の世界で活躍するOBOGの方々が、講師として指導してくれます。「筑波大学をPRせよ」というお題が出されて、グループでそれぞれポスターやラジオ・雑誌・アプリ・映像など、プロの講師の元で1ヶ月かけて制作をしました。講師の方々も普段は仕事をされており、ほとんど自分たちでやらなくてはいけないのですごく大変です。アウトプットの段階からは芸専も活躍できるけど、考える部分は他の学群の学生とも協力して、脳みそをフル回転させます。あんなに必死になって取り組んだ授業は他にないくらい大変でした。でも今となってはいい思い出です。

Q5. 将来やりたいこと

マス広告などを作る制作会社に就職が決まっています。会社の雰囲気も良くて楽しみです。デザイナーとしてはこれからラフォーレとか、自分が普段からよく見て憧れていた広告のように、みんなに親んでもらえる作品が作れるようになってみたいです。

現役生に聞いた

column
#02

どんな大学生になるのかな。

一人暮らしやサークル活動……期待もあるけど、不安もちょこっと。先輩からのアドバイスで、その不安を解消しちゃいましょう！

Q1. 友達作りが難しいって本当ですか？



まる
芸術専門学群4年



▲千葉県館山市にある大学の施設で研修。

A. 入学してすぐにフレッシュマンセミナーという授業で、学外での研修があったので、打ち解けることができました。研修で仲良くなった子以外にも、1年生は必修が大体同じなので席が近い子と仲良くなったり。芸術専門学群はサークルに所属してる人が少ないんですが、他の学群はサークルや部活の友だちがほとんどです。あと、大学では先輩との交流も大事だと思います。履修や就活についてアドバイスももらえます。友だちと遊ぶのもすごく楽しいですが、個人行動をしても楽しいのが大学の良いところでもあります。

Q2. 一人暮らしは寂しくないですか？



あやめ
芸術専門学群2年



▲慣れればささっと自炊もできるように。

A. 大学に入ってはじめての一人暮らしだったので、最初は寂しさを感じていました。でも大学の宿舎だと近くに友だちも住んでいて安心ですし、困った時は助け合えるので寂しい気持ちも薄れてきますよ。大学の周辺から、大きなスーパーへは自転車でも10分ほどで行けます。週に1回、1週間分の食材を買い出しに行って共同のキッチンを使って毎日自炊するようにしています。大学周辺には学生に優しい飲食店がたくさんあるので、友だちとおしゃべりしながらの外食も楽しみのひとつです。

Q3. サークル活動はしてますか？



ゆっこ
芸術専門学群3年



▲練習風景。学校は21時まで空いている。

A. 体育専門学群の人が多く所属する部活動と、サークルがあります。私が所属していたストリートダンスサークルは週2の全体練習に加え、イベント前は各自で練習時間を作っていました！比較的忙しいサークルでしたが、得られる達成感も大きかったです。勉強、アルバイト、サークルを両立するのは正直大変でしたが、サークルでの経験やそこで出会った友だち、先輩、後輩は私にとってとても大きな存在です。初心者も経験者も、先輩は大歓迎ですよ☆ たくさんの出会い、ぜひサークルで見つけてみてください！

Q4. 大学のイベントは楽しいですか？



ちゅんちゅん
芸術専門学群2年



▲やど祭のお神輿。芸専は毎年優勝候補！

A. 筑波大学には大きなお祭りが2つあって、1つめは「ヤドカリ祭」通称やど祭。やど祭は5月にある入学して最初のイベントです！1年生が主体になり、協力してお神輿を作ったり浴衣コンテストをやったりするので、友だちがたくさんできます。もう1つが雙峰祭(そうほうさい)と呼ばれている学園祭です。こちらはさまざまな催し物があって、かなり盛り上がります。敷地が広くて移動は大変なのですが、それぞれのエリアで面白そうなことをやっているの、ぜひ回ってみて欲しいです！



二学エリア

ハラル用の学食もあって、三学ほどではないが食堂が充実している。人文や生命環境などの授業で使用されることが多い。そのため、比較的女性が多めで華やかな雰囲気である。三学と同様に、「芝充」(芝生でゆっくりとした時間を過ごすこと)しやすい環境なため、羨ましがられることが多い。

一学エリア

スーパファクトリーや休憩用のテラスが存在するちょっとだけおしゃれな雰囲気のエリア。「チューデントプラザ」という学生支援のための施設がある。図書館やスターバックスも近場に存在し、松美池のほとりでランチもできることから、実は一番ゆっくりと自分の時間を過ごせるエリアかもしれない。

体芸エリア

毎日運動するため、常にかっこいいジャージ姿の体専と、モード系から作業着のツナギまで、ややカオスな芸専が集う体芸エリア。『体パチ』『芸パチ』と呼ばれる誰でも利用可能なラウンジが存在し、ミーティングや昼食で終日賑わっている。お昼時にはパンを購入するため長蛇の列ができる。お金がないときは『体芸食堂』、リッチな時は『体芸カフェ』に行くことをおすすめする。

医学エリア

医学群学生以外はほぼ足を踏み入れることのないエリア。なぜならば、医学エリアの建物は医学群学生の学生証でしか入ることができないからなのである。医学は実習などがハードということで有名で、授業後には死屍累々といった学生もたまに見られる。サークルなどは活発に参加している学生が多いので、エリアは離れているが交友関係も広い。

春日エリア

主に情報学群の学生が生息しているエリア。他に比べて圧倒的に遠いことから『春日大学』といじられることもしばしば。本人たちが自虐的に使うことも多々あるほど。授業の教室によっては間に合わないこともあり、苦勞しているエリアである。しかしその代わりつくば駅に近い。24時間空いている『サテライト室』も存在し、レポートや研究に徹夜で動しむ学生も多い。

三学エリア

『名店街』と呼ばれるバリエーション豊かで、コスバの良い食堂の集接地帯が存在する、お昼時に最も混み合うエリア。このエリアだけ食事系のサポートが特に手厚いため、他のエリアからはとても羨ましがられている。また噴水や芝生にも近く、一番大学らしい風景が広がっているエリアである。しかし理系寄りの授業が多く、やや男性が多めの景色となっている。

筑波大学の住人になる。

女子大生の大好きなフラペチーノが売っているコーヒーショップや、プロが使うようなトレーニング施設、

附属病院がある。緑が豊かで森林浴だってできるし、噴水の見える芝生の上でゴロゴロもできる。

新入生が泣きそうになりながら体育館を探すのだって何回も見た。それくらい広い。

もはや、筑波大学はひとつの街なのではないだろうか？ ※このページに収まってすらいません。

Welcome to University of Tsukuba

筑波大生の暮らして、どんな感じだろう？
現役生が大学の中で撮った写真で
普段の学生生活をのぞいてみよう。

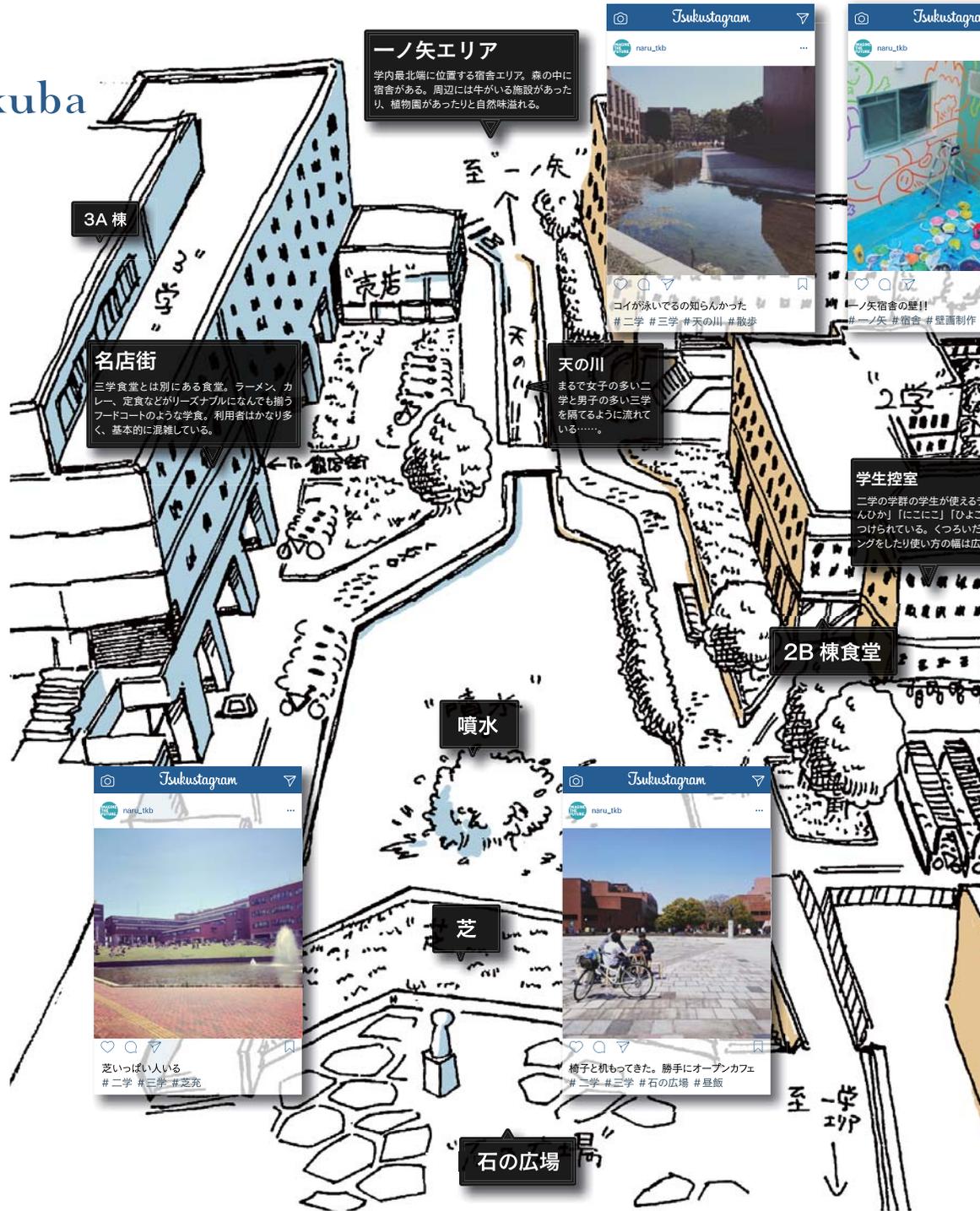
エリアで変わる大学の特色

筑波大学の学生は大きく分けて6つのエリアで勉強をしている。生活するエリア、学群や人が違えば普段の過ごし方も変わってくるはず。学内のマップを見ながら、写真の場所を探して散歩なんかしてみたら楽しく筑波大学に詳しくなれるかも。

理系の拠点、本学西側

[三学エリア]

社会工学類、国際総合学類、情報科学類、工学システム学類、応用理工学類が主に利用。学食が充実している三学エリアは、お昼休憩時は激混み。ラーメンや定食などが軒を連ねる「名店街」と呼ばれる食堂があり、学生に人気。



一の矢エリア
学内最北端に位置する宿舎エリア。森の中に宿舎がある。周辺には牛がいる施設があったり、植物園があったりと自然味溢れる。

3A棟

名店街
三学食堂とは別にある食堂。ラーメン、カレー、定食などがリーズナブルになんでも揃うフードコートのような学食。利用者はかなり多く、基本的に混雑している。

天の川
まるで女子の多い二学と男子の多い三学を隔てるように流れている……。

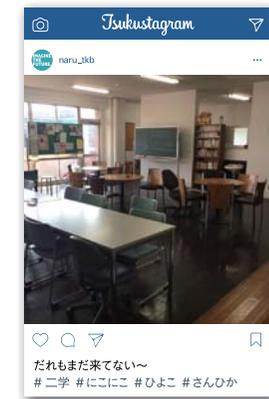
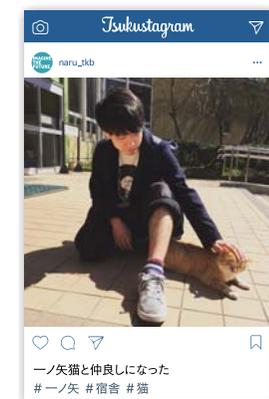
学生控室
二学の学群の学生が使えるラウンジ。「さんひか」「ひよこ」と名前がつけられている。くつろいだり、ミーティングをしたり使い方の幅は広い。

2B棟食堂

噴水

芝

石の広場



女子多き、華の二学エリア [二学エリア]

比較文化学類、人間学群、日本語・日本文化学類、生物学類、生物資源学類が主に利用。比較的女子学生が多いキャンパスで華がある。渡り廊下がガラス張り、そこから見える景色がきれい。

大きな池と図書館が目印 [一学エリア]

松美池を囲むようにして広場と校舎が並び、人文学類、社会学類、数学類、物理学類、化学類、地球学類が主に利用。雙峰祭(学園祭)では露店が多く出店し、松美池に飛び込む学生が頻出。サークルによっては恒例行事化されているが、衛生的にあまり良くない。



体育と芸術が集う異空間 [体芸エリア]

ジャージ姿の体育専門学生と個性的な服装をした芸術専門学生が行き交う異空間。芸パチ、体パチと呼ばれるラウンジにそれぞれが集う。トレーニングルームや制作工房など隣接する施設も他のエリアと比べ少々特殊。

